

紙おむつ等吸収体製品に使用する フラッフパルプ生産開始時期の変更について

大王製紙株式会社(住所：東京都千代田区)は、本日(11月12日)開催の当社取締役会において、紙おむつ等吸収体製品に使用するフラッフパルプ(※)の生産開始時期を2025年6月に変更することを決議しましたのでお知らせします。

生産設備の設置場所は、当初の計画どおり当社三島工場(住所：愛媛県四国中央市)とし、洋紙の生産設備を改造し、紙おむつ等吸収体製品の主要材料の一つであるフラッフパルプの加工原反となるロールパルプ生産設備とします。

※フラッフパルプ：ロールパルプから解繊した綿状パルプであり、高分子吸収材と混合して紙おむつや生理用ナプキン等の吸収体製品に使用する。針葉樹を原料とする漂白クラフトパルプで輸入品が大半を占める。

《フラッフパルプ生産開始時期の変更の背景》

当社は、需要減少の続く洋紙からの転換に加えて、100%輸入しているフラッフパルプの一部を内製化することで、吸収体製品の安定供給体制を一層強化することを目的として、三島工場の洋紙の生産設備を停機し、2022年9月にフラッフパルプ生産設備として再稼働させる計画を2020年8月7日に公表いたしました。

対象設備の三島工場15号抄紙機は2021年3月に停機し、他の洋紙マシンの稼働率を高めることにより、洋紙事業の構造改革は一段進んだものと考えております。

その一方で、これまでのコロナ禍の需要変動を踏まえ、三島工場の競争力のあるパルプを衛生用紙、段ボール原紙、クラフト紙へと活用していくためのパルプバランスを再検証した結果、戦略的な生産品種シフトによるマシン稼働率の維持と競争優位性の向上を実現する最適なタイミングとして、フラッフパルプの生産開始時期の変更を決定いたしました。

フラッフパルプ生産開始に向けた準備としましては、生産技術の研究と品質の確立に引き続き取り組んでまいります。

さらに、使用済の紙おむつから再生したパルプを配合したフラッフパルプの生産技術開発など、SDGsにも貢献できる新たな取り組みの調査、研究を進めてまいります。

《設備改造計画の概要》

- 1) 対象設備 : 三島工場 15 号抄紙機 (洋紙 生産能力 : 月産 5,000 トン)
- 2) 対象品種 : 印刷・情報用紙からフラッフパルプへの変更
- 3) 生産能力 : フラッフパルプ生産能力 月産 7,500 トン
- 4) 設備投資額 : 約 60 億円
- 5) 生産開始 : 2025 年 6 月稼動予定

*参考 : PRESS RELEASE 2020 年 8 月 7 日

「紙おむつ等吸収体製品に使用するフラッフパルプ生産開始について」

https://www.daio-paper.co.jp/wp-content/uploads/20200807_1.pdf

【本リリースに関するお問い合わせ先】

大王製紙株式会社 経営企画部 内野・水澤

TEL : 03-6856-7509